

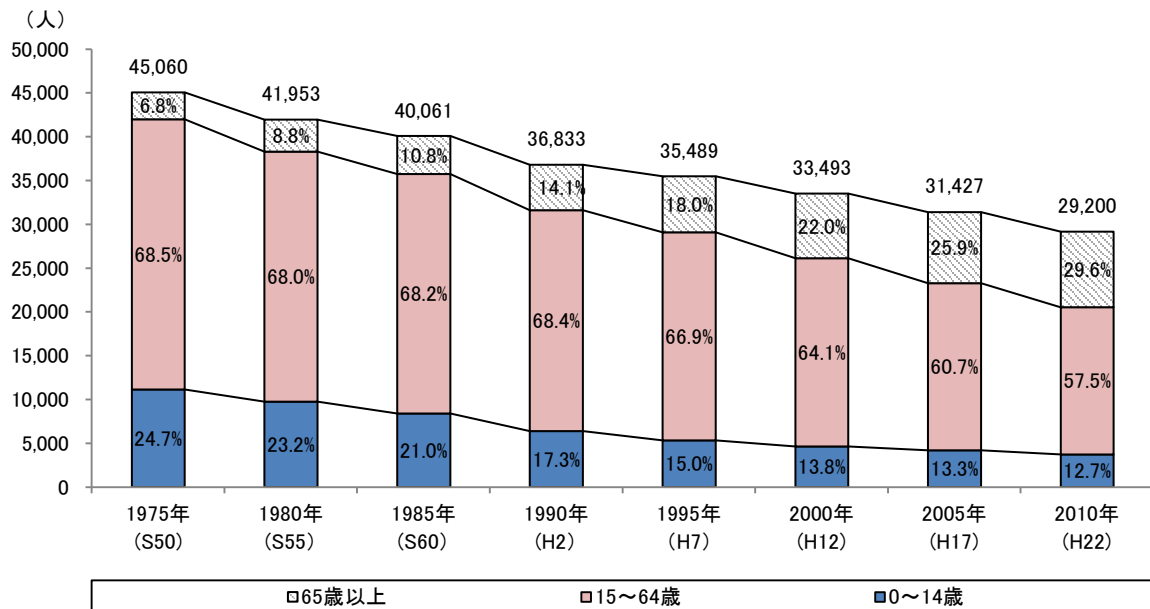
### 第3章 彦島地区の個別分析

彦島地区の人口の状況について、個別の分析を行います。

#### 1 彦島地区の人口推移

彦島地区の人口は、図表 3-1 のとおり年々減少を続けており、高齢化率である 65 歳以上人口が総人口に占める割合は、1975（昭和 50）年から 2010（平成 22）年の間で 4 倍以上上昇しています。一方、生産年齢人口（15～64 歳）及び年少人口（0～14 歳）の全人口に占める割合は、概ね減少傾向にあります。

図表 3-1 彦島地区人口の変化(1975 → 2010年)



資料) 総務省「国勢調査」を基に作成

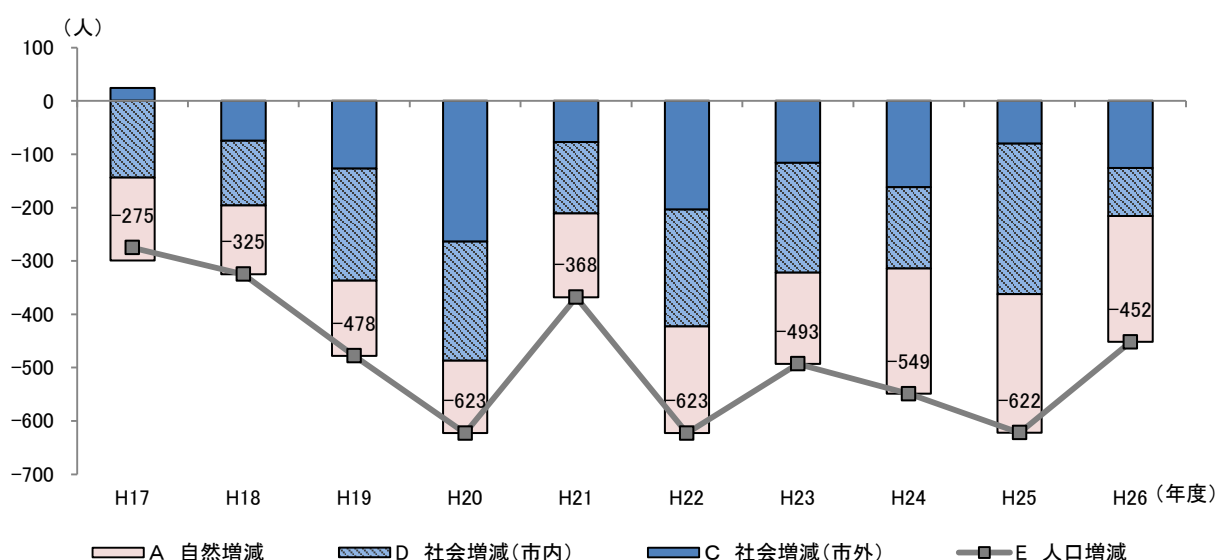
彦島地区における 2005（平成 17）年度から 2014（平成 26）年度まで、10 年間の自然増減及び社会増減の推移をみると、図表 3-2 のとおりとなります。

自然増減（A）については、一貫して出生数を死亡数が上回り、減少が続いています。転入数と転出数を差し引いた社会増減（B）については、一貫して減少傾向が続いています。（第 1 章（2 ページ）でみたように彦島地区の当該 10 年間で累計した社会減少率は、市内で最も高い数値となっています。）その内訳をみると、市外移動による社会増減（C）は概ね減少傾向にあり、市内移動による社会増減（D）は一貫して減少しています。

過去 10 年間に於いては、一貫した自然減少と社会減少が続き、彦島地区の人口増減（E）は、減少を続けています。

図表 3-2 彦島地区の人口動態 (2005(平成 17)年度～2014(平成 26)年度)

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
A 自然増減	(a-b)	-155	-129	-141	-136	-157	-200	-171	-235	-260	-236
a 出生数		222	224	225	222	208	185	201	167	152	153
b 死亡数		377	353	366	358	365	385	372	402	412	389
B 社会増減	(C+D)	-120	-196	-337	-487	-211	-423	-322	-314	-362	-216
C 社会増減(市外)	(c-d)	24	-75	-127	-264	-77	-204	-116	-162	-80	-126
c 転入(市外)		667	700	689	585	638	572	529	538	616	587
d 転出(市外)		643	775	816	849	715	776	645	700	696	713
D 社会増減(市内)	(e-f)	-144	-121	-210	-223	-134	-219	-206	-152	-282	-90
e 転居入(市内)		491	473	434	378	451	370	377	378	359	414
f 転居出(市内)		635	594	644	601	585	589	583	530	641	504
E 人口増減	A + B	-275	-325	-478	-623	-368	-623	-493	-549	-622	-452



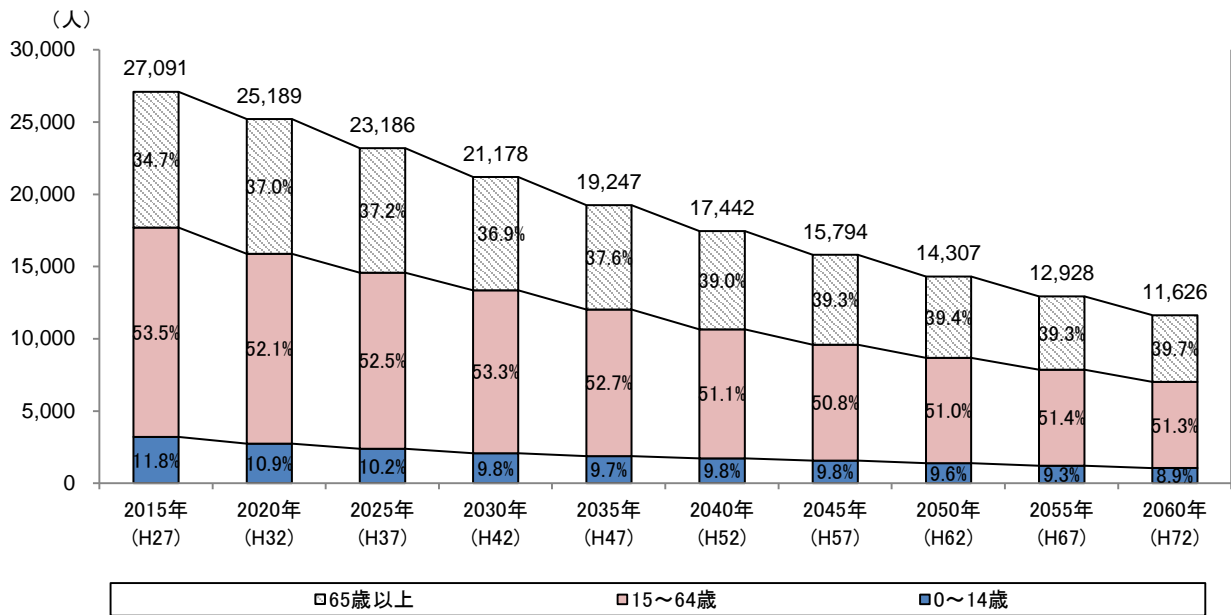
資料) 下関市ホームページ「統計しものせき (地区別の数値)」を基に作成

## 2 彦島地区の将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠して彦島地区の将来人口を推計すると、図表 3-3 のとおりとなります。総人口については、今後も減少が続く一方、高齢化率は、2060 (平成 72) 年まで上昇し続ける見込みとなっています。

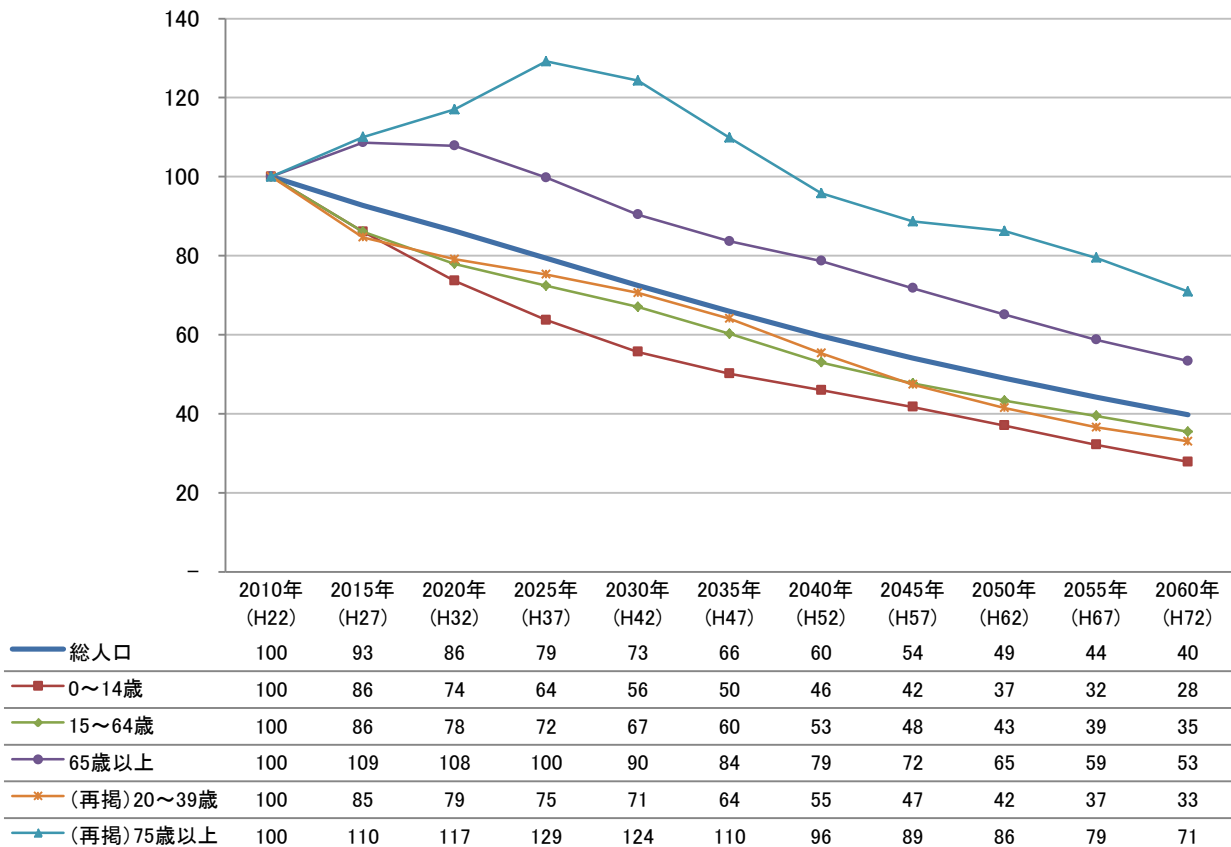
また、総人口及び各年齢区分の人口について、2010 (平成 22) 年の人口を 100 として年齢区分別人口の推移をみると、図表 3-4 のとおりとなります。総人口、年少人口 (0～14 歳)、生産年齢人口 (15～64 歳) は一貫して減少を続け、2060 (平成 72) 年までの 50 年間で半以下となり、20～39 歳については約 3 割まで減少する見込みとなります。一方、65 歳以上の人口は 2015 (平成 27) 年、75 歳以上の人口は 2025 (平成 37) 年まで上昇し、以降、減少に転じる見込みとなっています。

図表 3-3 彦島地区将来人口推計（2015-2060年）



資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

図表 3-4 彦島地区年齢区分別人口の推移（2010年=100）

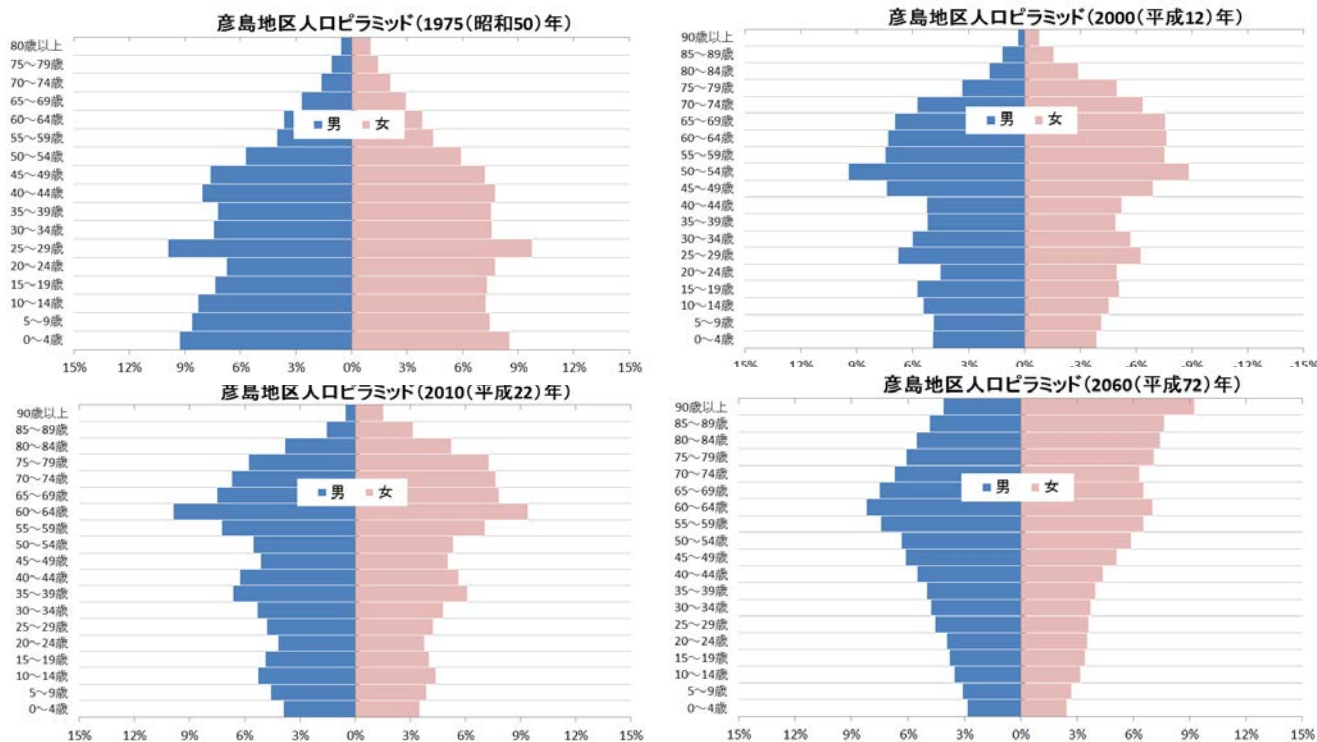


資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

### 3 彦島地区の人口ピラミッド分析

1975（昭和 50）年にピラミッド型であった人口の年齢別構成比は、若年層の減少・高齢者の増加により、つぼ型に変化していく見込みです。

図表 3-5 彦島地区人口ピラミッド(年齢別構成比)の推移 (1975年 → 2000年 → 2010年 → 2060年)



注) 1975年、2000年、2010年は実績値（年齢不詳を除く）。2060年は下関市推計値。

資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

### 4 彦島地区の特性分析

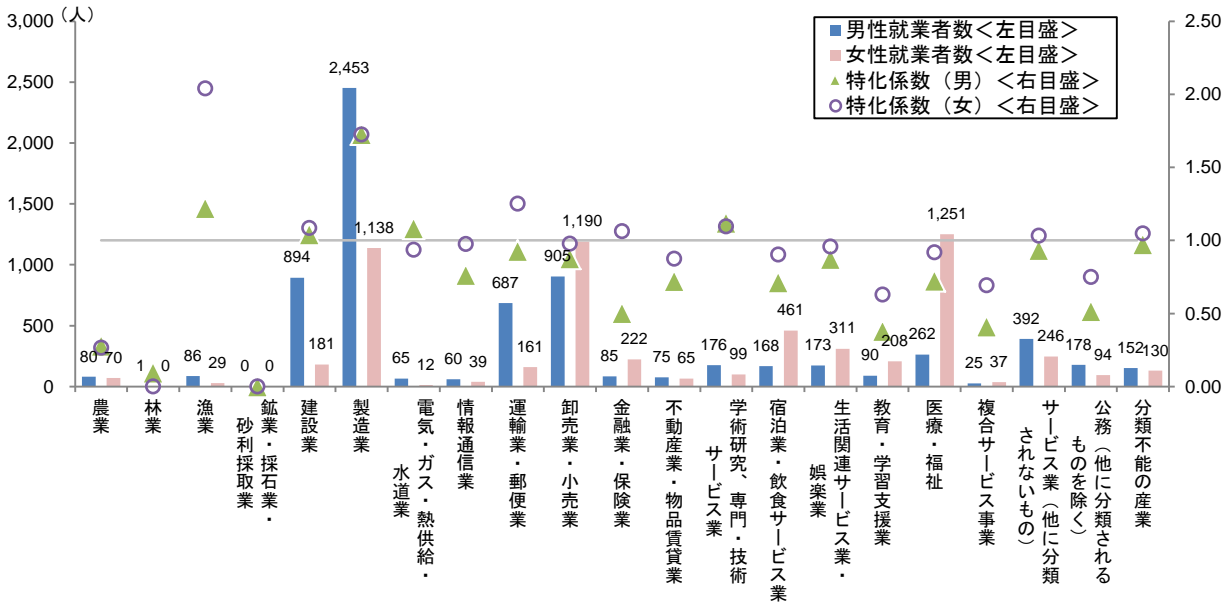
国勢調査（平成 22 年）の小地域集計から、彦島地区の特性を分析します。

#### (1) 常住地による就業人口 (図表 3-6)

- ・男性は「製造業」の従事者が最も多く、女性は「医療・福祉」、「卸・小売業」、「製造業」の従事者がそれぞれ 1,000 人以上（全体の 20%前後）となっている。
- ・本市全体の構成比と比較した「特化係数<sup>1</sup>」は、男女ともに「漁業」と「製造業」の数値が高くなっている一方、「農業」は低い状況となっている。

<sup>1</sup> 当該地区の構成比を本市全体の構成比で除して得た値。ここでは 1 より大きい産業ほど、市全体と比べて就業者数の割合が大きいことになる。（地区の特徴をみるため、特化係数が高く、ある程度就業者数が多い産業について記述。）

図表 3-6 彦島地区の男女別産業(大分類)別人口 (15歳以上就業者数:男性総数 7,007 人、女性総数 5,944 人)

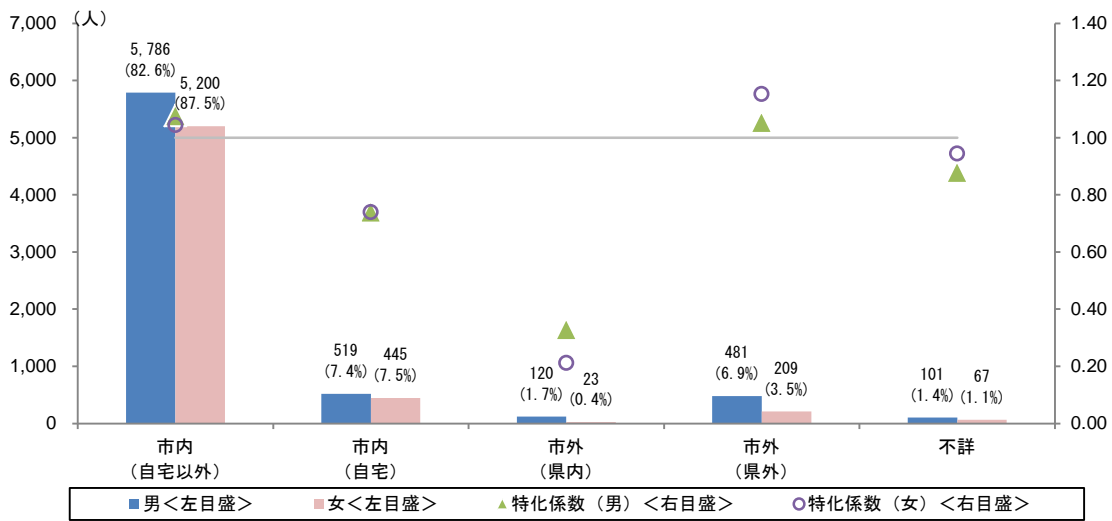


注) 特化係数は下関市全体との比較  
資料) 総務省「国勢調査(平成 22 年)」を基に作成

## (2) 彦島地区住民の就業地 (図表 3-7)

- 男女とも「市内(自宅以外)」で就業している人の数が多い。
- 市全体の構成比と比較した特化係数は、女性の「市外(県外)」の値が高い。

図表 3-7 彦島地区住民の就業地 (15歳以上就業者数:男性総数 7,007 人、女性総数 5,944 人)

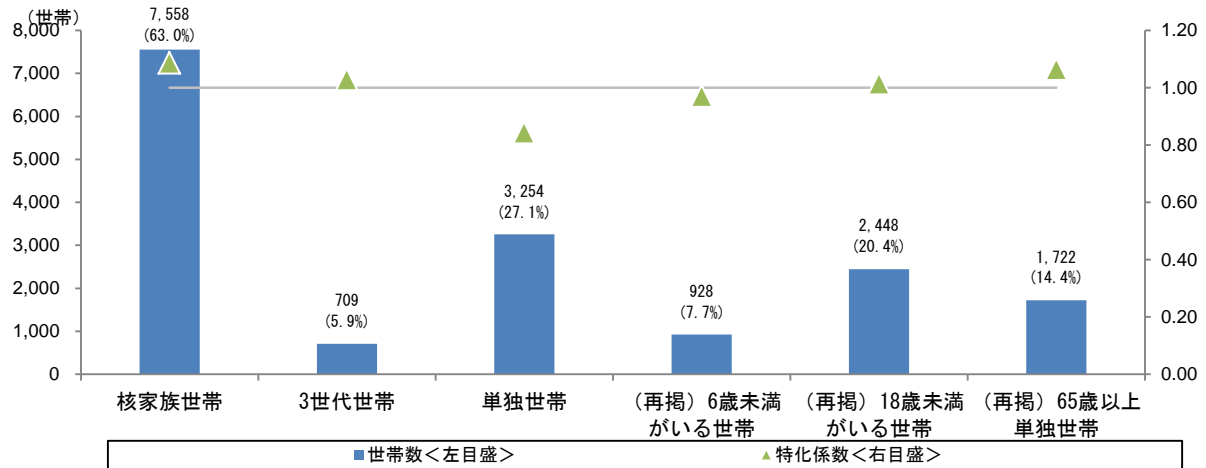


注) ( ) 内の数値は、15歳以上就業者数男女各総数に占める割合。  
注) 特化係数は下関市全体との比較  
資料) 総務省「国勢調査(平成 22 年)」を基に作成

### (3) 彦島地区内の一般世帯の状況 (図表 3-8)

- 「核家族世帯」の数が多。
- 市全体の構成比と比較した特化係数は、「単独世帯」を除く世帯で、概ね 1 であり、全市と同じ水準となっている。

図表 3-8 彦島地区の一般世帯の状況 (一般世帯総数:11,993 世帯)



注) ( ) 内の数値は一般世帯数に占める割合。(再掲の値があるため、合計は 100%にならない。)

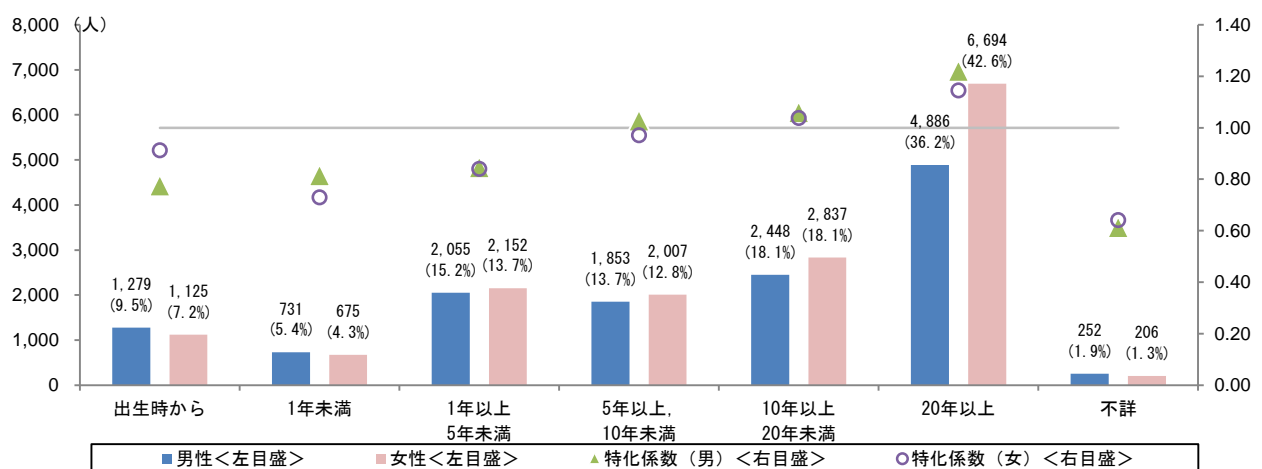
注) 特化係数は下関市全体との比較

資料) 総務省「国勢調査(平成 22 年)」を基に作成

### (4) 彦島地区住民の居住期間 (図表 3-9)

- 男女とも、居住期間「20 年以上」の人が最も多い。
- 市全体の構成比と比較した特化係数は、男女とも居住期間「20 年以上」の値が高く、「出生時から」、「1 年未満」、「1 年以上 5 年未満」の値が低い。

図表 3-9 彦島地区住民の居住期間 (男性総数 13,504 人、女性総数 15,696 人)



注) ( ) 内の数値は、男女各総数に占める割合。

注) 特化係数は下関市全体との比較

資料) 総務省「国勢調査(平成 22 年)」を基に作成